

宮津市教育大綱・第3期教育振興基本計画中間案に対するパブリックコメント実施結果について

宮津市教育委員会事務局

- 1 意見の募集期間 令和8年1月8日(木)～令和8年1月21日(水)
- 2 意見の募集方法 直接持参・郵送・FAX・電子メールで受け付け
- 3 意見提出件数 6名・16件
- 4 意見に対する市の考え方

No	意見概要	市の考え方
1	先行きが不透明で、5年後でさえどうなるのか分からない時代の中、基本理念としての「一人ひとりがともに学び続け、心豊かで明日の宮津を創造する人」は、学校教育の原点であり、心のふるさと宮津を思う素晴らしい言葉だと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。 子どもから大人までそれぞれのライフステージに応じて、一人ひとりが豊かな学びを通してウェルビーイングの実現につがるよう、また、地域社会の創り手となるよう「心豊かで明日の宮津を創造していく人」を目指して取組を進めてまいります。
2	熱中症や多発する地震のことを考えると、施策にある体育館のエアコン整備が早く実現できることを望みます。	貴重なご意見として承り、今後の施策検討の参考にさせていただきます。
3	学校現場では、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末の整備や通信環境の構築はすでに一定程度進んでおり、現在は端末やICT環境をどのように効果的に活用し、学びの質を高めていくかが主な課題となっています。 そのため、「GIGAスクール構想の実現を目指し」という表現は、現状の取組段階とやや乖離があるように感じます。 次期教育大綱においては、「GIGAスクール構想の下で」「GIGAスクール構想を踏まえ」など、取組が一段階進んでいることが伝わる表現への見直しを検討していただきたいと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。 宮津市では、これまで子どもたちの1人1台端末や高速大容量の通信ネットワークの整備・更新など、一定教育環境を整備してまいりました。一方で、より一層ICTの「学び」への活用が今後ますます重要となりますので、引き続きGIGAスクール構想の実現を目指すこととしているものでございます。
4	人権を尊重する意識の育成は、子どもへの指導だけでなく、教育に関わるすべての大人が、自らの言動や振る舞いを見つめ直すことを通して深まっていくものだと考えます。 近年、指導的・管理的立場にある者の言動が人権の観点から問われる事例が見られることから、大人自身の人権感覚を高めていくことは重要な課題であると言えます。 教育行政や学校現場においては、立場の違いがある中でも、相手の尊厳に十分配慮した関わりが求められており、次期教育大綱においては、子どもへの人権教育の充実に加え、教育に関わるすべての関係者が人権感覚を磨き続けることを重視する視点を、より明確に示していただきたいと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。 子どもから大人を通じた人権を尊重する意識の醸成は、大変重要であります。 このため、本計画の根幹部分となる「教育の基本理念」と「めざす人間像」を定めるにあたり、その考え方を明記したところです。 こうした中、子どもへの人権教育につきましては、人権教育及び人権啓発の推進に関する法律や学習指導要領等に基づき、学校教育活動全体を通じ、児童生徒の発達段階や地域の実情を踏まえ、学校教育を通じて「いじめや暴力を許さない学校づくりを進める」とこととしております。 また、子どもたちや教育に関わる全ての関係者につきましても、人権に関する様々な課題について、正しい理解と認識がより一層深まるよう、様々な機会を通じて研修の充実に努めてまいります。
5	本文中で用いられている「安全・安心」「安心・安全」という表現について、表記の統一を検討していただきたいと思います。 安心は、安全が確保されてこそ生まれるものであることから、「安全」を基盤として「安心」につながるという関係性を踏まえると、「安全・安心」という表現に統一することが、考え方としても分かりやすいと考えます。	貴重なご意見ありがとうございます。表記につきましては「安全・安心」で統一させていただきます。

宮津市教育大綱・第3期教育振興基本計画中間案に対するパブリックコメント実施結果について

宮津市教育委員会事務局

- 1 意見の募集期間 令和8年1月8日(木)～令和8年1月21日(水)
- 2 意見の募集方法 直接持参・郵送・FAX・電子メールで受け付け
- 3 意見提出件数 6名・16件
- 4 意見に対する市の考え方

No	意見概要	市の考え方
6	<p>豊かな自然のある宮津市だと思いますが、近年特にここが弱いと感じています。四季折々に山、川、海での豊かな体験ができる宮津市の特徴が出ていないように思います。京都府登録天然記念物など貴重な動植物が多数生息し、天橋立を始め、丹後半島東部では植物化石が産出し、高層湿原が存在する等、地形・地理的にも非常に特徴のある地域です。</p> <p>自然について明文化されているのが学校で行う「ふるさとみやづ学」だけで、市(社会教育)としての取組はほぼ無いように思えます。学識経験者や地域のアマチュアの方を生かした、自然観察や体験を市として企画してほしいと思います。児童生徒に宮津の自然の素晴らしさを感じる機会をもち、実体験を通してふるさと宮津に自然環境の面でも誇りをもってもらいたいと思います。</p> <p>また、不登校傾向の児童生徒が活動する場の一つとして、自然の中で体験できるようなプログラムや企画があればいいと考えています。</p> <p>すでに、これまでできてきたこともたくさんあると思うので継続し、SDGsと絡めた企画や、すでに市内の施設・団体(海と星の見える公園、宮津天橋高校フィールド探究部等)とタイアップできるようなことも明文化されたいと思います。</p> <p>学校の職員として、一緒に考え、お手伝いできることがありましたらさせていただきます。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本市の豊かな自然を活かした子どもたちの体験活動については、社会教育・人権教育の振興に係る主な施策として、「①生涯にわたる多様な学習機会の拡充」における公民館活動や、「④ふるさとみやづ学の推進」における高校生や小中学生と地域の方々との交流により、様々な自然体験を通じた学習機会を提供してまいります。</p> <p>本市の不登校や不登校傾向にある児童生徒が学校以外の活動する居場所として、適応指導教室「こころのひろば」、みやづ子どもサポートセンター“ぼけっと”を開設しております。</p> <p>これまで「こころのひろば」では毎年、世屋地区内で自然体験活動を実施、また“ぼけっと”では将来的に自然の中で体験活動する機会を持つこととしております。</p> <p>なお、本計画に基づく個別具体の取組等につきましては、毎年作成する教育の重点で明文化することとしております。</p>
7	<p>主体的で対話的で深い学び、質の高い学びを生み出すためには、児童生徒の学びに向かう力が不可欠です。</p> <p>児童生徒が学びの当事者として学習に向かうことができるよう、心理的安全性の保たれた学習環境をつくり、ある意味解放された学びの環境の中で教育を進めることが大切だと考えます。</p> <p>そのために教師の基本姿勢について、「教える」から「自ら学ばせる」への転換、ファシリテーターとしての教師の立ち位置を教育大綱の中で確認できればと思います。市民の皆さまにも学びの転換については理解をしていただきたいと思いますし、いつまでも変わらないでは次の5年もすぐに過ぎていくと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>国では、2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿として、「個別最適な学び」、「協働的な学び」それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるとされています。</p> <p>ご意見をいただきました学びの転換につきましては、本市としても大切なことと受け止めており、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学び続ける教師像というものを今後しっかりと明確に示していきたいと考えております。</p>
8	<p>市立図書館の機能充実に合せて、図書館司書の人的な学校支援(学校図書整備への助言など学校図書機能へのサポート)も検討に加えていただけるとありがたいです。</p> <p>PTA会員の減少は、学校単位で取り組んでいかなければならない課題です。その解消のためにも、地域とのつながりも重要だと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>児童生徒の読書活動を推進するためには、市立図書館の機能充実とあわせて、学校図書館の教育的機能を高めていく必要があります。</p> <p>学校図書館の充実に向け、市立図書館としてどのように支援していけるか今後検討してまいりたいと考えております。</p>
9	<p>学校現場で勤務する立場として、昨今の児童生徒をとりまく多くの課題の中でも、不登校問題は特に大きな課題であると感じています。</p> <p>そのため、小中一貫教育やコミュニケーション教育また、フリースクールの設置など、人員や設備の充実を含め、学校教育の中でもさらに充実させていくべきだと考えています。そうすることが児童生徒全体の学力保障にもつながると思っています。</p> <p>また昨今、暑さ寒さなどの気候の影響や感染症の影響などで、子どもたちの学習が制限されることが幾度ありました。</p> <p>体育館へのエアコンの設置やGIGAスクール構想のさらなる深化は今後さらに重要度がましてくると思っています。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>不登校の問題につきましては、本市でも大変大きな課題として受け止めております。</p> <p>こうした中、宮津中学校・宮津小学校に校内フリースクールを設置するとともに、子ども第三の居場所としてみやづ子どもサポートセンター“ぼけっと”を民間の施設内に開設するなど、人員や設備を充実してまいりました。</p> <p>引き続き、不登校対策をはじめ、小中一貫教育やコミュニケーション教育など、子どもたちが幸せに生きていける資質や能力を育むとともに、一人ひとりにとって豊かで多様な学びを提供できるよう努めてまいります。</p>

宮津市教育大綱・第3期教育振興基本計画中間案に対するパブリックコメント実施結果について

宮津市教育委員会事務局

- 1 意見の募集期間 令和8年1月8日(木)～令和8年1月21日(水)
- 2 意見の募集方法 直接持参・郵送・FAX・電子メールで受付け
- 3 意見提出件数 6名・16件
- 4 意見に対する市の考え方

No	意見概要	市の考え方
10	「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」という基本理念は、これからの宮津市を担う子ども達の育成にとって大変重要だと思います。特に学校教育だけでなく、地域全体で子ども達を育てていこうという方向性は、少子化や地域課題が進む中で非常に重要だと感じます。	貴重なご意見ありがとうございます。 基本理念に掲げる「豊かな学び」を通して、本市に暮らす全ての人々が幸せや生きがい、豊かさを感じられる地域社会の実現に向け取り組んでまいります。
11	「就学前から10年間を見据えた小中一貫教育のこれまでの成果も踏まえ～」とは、明記されていますが、「幼児期に育まれる主体性や協同性、遊びを通した学びを小学校以降の基盤として～」のように、幼児期の育ちと小学校以降の学びがどのようにつながっていくのかをより具体的に示していただくところがあっても良いのかと感じました。	貴重なご意見ありがとうございます。次のように一部修正させていただきます。 幼児期に育まれる主体性や協働性、また遊びを通した学びは、小学校以降の学びや生涯にわたる生活の基盤となります。このため、個々の発達や学びが途切れることなくスムーズにつながるよう、就学前から10年間を見据えた小中一貫教育の更なる推進や保幼小中高等学校連携を進めます。
12	「勤務時間上限遵守に向けた取組等を通じ～」という「働き方」「働きがい」が明記されているところも大事なことだと感じました。	貴重なご意見ありがとうございます。 教育現場における「働き方改革」・「働きがい」の両立は、職場の心理的安全性や良好な労働環境等を確保する上で重要なものと考えております。 学校教職員や子どもたちを含め、学校全体のウェルビーイングにもつながるよう取組を進めてまいります。
13	学校に対する期待を、学校教育に携わる者として、ひしひしと感じています。期待に応えるべく、子ども達が将来、社会の中で自立していけるように、教職員が協力して、日々の教育活動を行っているところです。 教育大綱や基本計画に関して、基本的な内容に関しては、学校としても個人としても、納得できる内容だと感じています。	貴重なご意見ありがとうございます。 本市では、質の高い、魅力ある教育の実現に向けて、引き続き、幼稚園並びに小中学校と一緒に取り組んでまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

宮津市教育大綱・第3期教育振興基本計画中間案に対するパブリックコメント実施結果について

宮津市教育委員会事務局

- 1 意見の募集期間 令和8年1月8日(木)～令和8年1月21日(水)
- 2 意見の募集方法 直接持参・郵送・FAX・電子メールで受付け
- 3 意見提出件数 6名・16件
- 4 意見に対する市の考え方

No	意見概要	市の考え方
14	<p>現状分析・課題では、学校でも感じている様々な課題が記載されています。特に基礎学力の定着に関しては、課題が大きく、小・中学校では長きに渡って取組を続けてきているところですが、なかなか課題が改善できておりません。ここまで続けると、現状の取組の継続だけでは、課題の解決が難しいと言わざるを得ません。</p> <p>具体的には、低学年期の丁寧な学習指導が必要だと考えます。少人数かつ習熟を意識した形での個別学習を進めていかないと、小学校低学年期の課題が、中・高学年でさらに大きな課題となってまいります。</p> <p>現在の中学生の姿を見ていると、小学校低学年期の学習が徹底して身に付くようにするための、学習に係る人材の人的配置が必要な状況だと感じています。低学年期の丁寧な指導により、「わかる」という実感を持てると、その気持ちが非認知能力につながり、学習意欲の向上にもつながります。わからない状態が続くと、学習への意欲を失い、前向きな気持ちが持てなくなります。</p> <p>小学校の段階で、このような状況に陥らせないようにするためにも、必要な人的配置を行い、そこから反復学習を行う必要があります。</p> <p>一方で、学校現場にいる者として、改善している課題もあると感じています。不登校や不登校傾向の子ども達の増加に対して、教育支援センターや校内フリースクール等を設置して、休み始めから早めの手立て等を行う中で、不登校の長期化を防いだり、人とのつながりづくりを進めたりすることができています。その結果、卒業後、希望する進路への進学等も実現しています。</p> <p>他にも、仲間の中では自分が出せても、改まった場所や初めて出会う人がいる場所での対話が苦手な子どもが多くいるという課題も大きいと感じておりました。しかしながら、近年のコミュニケーション教育により、子ども達の雰囲気明らかに変わってきています。</p> <p>現在、宮津中学校に在籍する子ども達は、特段の理由がない限り、平田オリザ氏の授業を受けています。また、劇団員の方々からの指導助言を教員も受けております。コミュニケーションの力は一朝一夕で身に付くものではありませんが、改善の兆しを感じられます。具体的には、人前で話し慣れている子どもが増えていること、またそういった話す機会を意図的に増やしていること、教員が原稿を用意するのではなく、自分で原稿を工夫して考えられるように変えていっています。今後のコミュニケーション教育では、実施学年を変えたりしながら、継続した取組を進めていくことで、課題の解決につなげていくことができると 생각합니다。</p> <p>学校現場の限られた人員と現場の努力だけでは限界があります。基礎学力の向上に係る人的配置や、現場で力を入れているものの、なかなか力を伸ばし切れていない英語等に関して、AIアプリの導入を検討する等、宮津ならではの教育、宮津で学校生活を送って良かったと、子どもや保護者から思ってもらえるようにしていきたい。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。本市においても、基礎学力の定着をはじめ、確かな学力の育成について課題があると感じております。</p> <p>こうした中、特に小学校低学年からの「わかる」という実感が持てる丁寧な学習指導として、専門性を活かした伴奏支援による各学校への指導方法の見直しや授業改善を積極的に進めることとしております。</p> <p>本市の学力向上に向けては、本計画でお示した、「確かな学力の充実・向上」を目標に、『学力向上プラン』に基づき、基礎・基本の徹底・論理的思考力や表現力の育成・ICTを活用した学習意欲の喚起、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、一人ひとりに応じた学力向上対策を展開していきます。</p> <p>併せて、社会の中で生きる力を育むため、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりの充実や、英語教育の充実も含め、今後も子どもたち一人ひとりにとって豊かで多様な学びの実現に向け取り組むこととしております。</p> <p>また、「主体的・対話的で深い学び」につきましては、学級の友だちとの間で話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりといった対話的・協働的な学びに対して学力が高い傾向にあるなど、これまで実践してきたコミュニケーション教育の取組の成果が表れてきていると考えております。</p> <p>本市では、子どもたちが幸せに生きていける資質や能力を育めるよう、多様な学びを提供していくとともに、「どこにいても通用する確かな学力育成」、「どこに住んでも心の支えとなる故郷みやづへの思いの醸成」を目指して『宮津の新しい教育の創造』を進めてまいります。</p>

宮津市教育大綱・第3期教育振興基本計画中間案に対するパブリックコメント実施結果について

宮津市教育委員会事務局

- 1 意見の募集期間 令和8年1月8日(木)～令和8年1月21日(水)
- 2 意見の募集方法 直接持参・郵送・FAX・電子メールで受付け
- 3 意見提出件数 6名・16件
- 4 意見に対する市の考え方

No	意見概要	市の考え方
15	<p>学校教育の振興に関する数値目標では、地域の行事に参加している児童生徒の割合が提示されており、小学校6年生も中学校3年生のいずれも京都府平均を大きく上回っている現状があります。</p> <p>しかしながら、令和12年の目標数値は数値的に非常に高いものとなっており、何らかの取組を実施しない限り、現時点では達成が困難だと思われる。今住んでいる地域の行事に参加するには、多くの地域で行事が行われていることが前提であり、コロナ禍を経て行われなくなった地域の行事もあるため、より数値的な目標として達成が困難であると感じられます。この項目を保持するのであれば、目標数値を下げるか、「今住んでいる地域」という場所のしびりが、具体的に何を示しているのかを明確にする必要があると思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>学校教育の振興に係る数値目標についてですが、『今、住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合(京都府学びのパスポート)』における令和12年度の目標値は70%を上回るとしています。</p> <p>子どもたちが自分の住む地域の行事等に参加することは大変重要である一方で、地域の祭り・伝統文化・芸能などの継承も重要であると考えています。</p> <p>なお、数値目標につきましては、本計画の中間年(3年目)と最終年(5年目)に数値目標や主な施策の達成度等を点検等する中で、その達成度に基づき、必要があれば数値目標の見直しを行ってまいります。</p>
16	<p>文化芸術に関しては、学校教育の中で本物に触れる機会を増やしていきたいと感じています。</p> <p>また、スポーツに関しては、今後、取り組む子どもとそうでない子どもとの二極化が進まないように、取組を進めていきたいと考えております。</p> <p>現在、中学校では部活動の地域展開に向けての動きが進んでおりますが、運動機会の選択が進むほど、運動をしなくなる子どもが増えることが目に見えています。現在の中学生は5年後に一部が成人となります。生涯にわたってスポーツ等を楽しむためにも、スポーツをする場所や機会を意図的に増やせるような施策の実施を、ぜひともお願いいたします。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本市としましても、学校と協力しながら、学校教育の中でも本物にふれる機会を創出してまいりたいと考えております。また、スポーツに関しても二極化傾向・子どもの体力の低下傾向が続いている中、学校教育現場においては子どもの体力維持・向上に重要な役割を担っていただいていると感じております。</p> <p>子どもの体力の低下は、子どもが豊かな人間性や自ら学び自ら考える力といった「生きる力」を身に付ける上で悪影響を及ぼし、将来的な生活習慣病リスクの増加や社会全体の活力低下にも繋がる深刻な問題であると認識しており、スポーツや外遊びの機会を増やしていく取組を地域全体で進めていくことが重要であると感じております。</p> <p>生涯にわたって楽しく身体を動かす機会や場所を増やしていけるよう、様々な関係団体等と連携しながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。</p>



